

履修要綱（修士）

1 修了の要件

本研究科博士前期課程を修了するためには、同課程に4セメスター以上在学し、30単位以上を修得して、学位論文を在学期間中に提出し、その審査および最終試験に合格しなければならない。

ただし、在学期間に関して、在学期間中、特に優れた研究業績をあげた者は、大学院設置基準等に定める教育方法の特例（以下、特例と呼ぶ）によって、2セメスターをもって課程を修了することもできる。この場合、当該学生は、強い研究意思と特に優れた能力を持ち、かつ、その修了に必要なすべての要件を満たす者でなければならない。

【国際開発専攻、国際医療協力専攻、グローバル・コミュニケーション専攻】

授 業 科 目		必要単位数	修了必要単位数
1	主科目（自専攻の授業科目）	14単位以上	30単位 以 上
2	論文指導 I （第1セメスターから履修する） （修士論文を提出し、審査に合格した場合のみ単位付与） ※ 論文指導 I は、修士論文指導科目である。	8 単位	
3	副科目（専攻を異にする授業科目） 指導教授に相談の上、履修可能	特に定めなし	
4	基礎科目 （第1セメスター・第2セメスターのみ履修可） ①アカデミック・ライティング ②アカデミック・ジャパニーズ ③統計学 ※ ①②…履修は日本語を母国語としない学生に限る。 ③……出身大学にて履修をしていない学生は履修することが望ましい。	特に定めなし	

博士前期課程 グローバル・コミュニケーション専攻

専門分野に関する科目

専門分野	2023年度の授業担当者			
	授業科目	開講	単位数	教員名
日中通訳翻訳研究	日中通訳概論Ⅰ／日中通訳概論A	春	2	宮首 弘子
	日中通訳概論Ⅱ／日中通訳概論B	秋	2	
	日中翻訳概論Ⅰ／日中翻訳概論A	春	2	藤田由香利
	日中翻訳概論Ⅱ／日中翻訳概論B	秋	2	
	日中比較文化論Ⅰ／日中比較文化論A	春	2	森 和
	日中比較文化論Ⅱ／日中比較文化論B	秋	2	
	日中逐次通訳論Ⅰ／日中逐次通訳特論A	春	2	醍醐美和子
	日中逐次通訳論Ⅱ／日中逐次通訳特論B	秋	2	
	日中同時通訳論Ⅰ／日中同時通訳特論A	春	2	宮首 弘子
	日中同時通訳論Ⅱ／日中同時通訳特論B	秋	2	
	通訳理論と技法論Ⅰ／ 通訳理論と技法特論（中国語分野）A	春	2	醍醐美和子
	通訳理論と技法論Ⅱ／ 通訳理論と技法特論（中国語分野）A	秋	2	
言語・教育研究	英語コミュニケーション論／ 英語コミュニケーション概論A	春	2	倉林 秀男
	言語文化論（英語分野）／国際英語文化論A	秋	2	イアン・ランバート
	言語文化論（日本語分野）／日本語文化特論A	春	2	河路 由佳
	比較文学論／日英比較言語社会学特論A	秋	2	高木眞佐子
	英語文法論（新規）	秋	2	八木橋宏勇
	日本語文法論（新規）	春	2	荒川みどり
	応用言語学／応用言語学特論A	春	2	八木橋宏勇
	英語教育論	春	2	岩本 和良
	日本語語彙論	秋	2	鄭 英淑
	日本語構造論／日本語構造論A	春	2	荒川みどり
	日本語教育論Ⅰ／日本語教育特論ⅠA	春	2	荒川みどり
	日本語教育論Ⅱ／日本語教育特論ⅡA	秋	2	荒川みどり
	音声学音韻論Ⅰ／対照音韻学特論A	春	2	嵐 洋子
	音声学音韻論Ⅱ／対照音韻学特論B	秋	2	岩本 和良
	言語学／言語学特論A	春	2	八木橋宏勇

博士前期課程 基礎科目

専門分野に関する科目

	2023年度の授業担当者			
	授 業 科 目	開講	単位数	教員名
専攻共通	アカデミック・ジャパニーズ	春	2	河路 由佳
	アカデミック・ライティング	秋	2	河路 由佳
	統計学	秋	2	小田 信之

- 上記3科目の履修は1年次のみ履修可能。
- アカデミック・ライティング、アカデミック・ジャパニーズの履修は日本語を母語としない学生に限る。